

# 八学短大生 3園結び交流

## 八戸

八戸学院大学短期大学部(八戸市)の幼児保育学科は6月30日、市内の保育園と幼稚園の3園をインターネットで結び、オンライン会議システムを使った交流を行った。

「環境」と「健康」の合同授業の一環。毎年6月に園児と屋外で交流してきたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防対策として、オンラインを活用した試みに切り替えた。

参加したのは、同学科の2年生約90人と、いずれも認定こども園で同市西白山台の「みどりのかせエデュカール」、「みどりのかせ北ウィング」、桔梗野にある「桔梗野幼稚園」の年長児合わせて約70人。

学生はグループごとに紙人形劇や歌、クイズなどの遊びを専用カメラを通じ披露。初の試みで配信される音声と動作のずれに戸惑う様子があったものの、画面



の向こうにいる園児から笑い声や拍手などの反応が返ってくる。学生は「やったー」「ありがとう」などと声を上げた。下館春菜さん(19)は「声

画面の向こうにいる園児たちの反応をつかがいながら、紙人形劇を披露する学生たち

に抑揚をつけたり動作を大きくしたり、会って触れあう場合と違う工夫をした。子どもたちの笑顔が見られてうれしかった」と話していた。

澤井睦美教授は「コロナを契機に、情報通信技術を活用した保育の在り方も増えてくることが予想される。学生にはいい機会になったと思う」と語った。

同学科は1971年に幼児教育学科としてスタート。9割以上の学生が、保育士と幼稚園教諭の両資格を得て、保育園や幼稚園に就職している。

(加藤桃子)